

JR連合 政策News

第279号

2016年9月21日

バス関係 2017 年度予算概算要求 国交省道路局へも要請行動を展開!

～高速バスの停留所立寄りのための

高速道路からの一時退出を可能とする施策の推進を要請～

9月21日、JR連合は、交運労協バス部会の一員として2017年度予算概算要求について国土交通省道路局への要請行動に参加した。交運労協を代表して高島事務局長の挨拶の後、要請行動に同席いただいた交運労協の政策推進懇談会のメンバーで近藤昭一衆議院議員（21世紀の鉄道を考える議員フォーラム）からもご挨拶をいただいた。国土交通省からは藤井総務課長以下、各担当者に出席いただいた。

交運労協が構成組織などの要望などを取りまとめた要求項目にもとづき、道路局の各担当から回答をいただいたのち、意見交換を行った。

JR連合自動車連絡会を担当する中山政治部長からは、ETC2.0を活用によってトラック運転者の休憩などを目的に道の駅など利用のために高速道路一時退出を可能（一時退出した場合でも高速を降りずに利用した料金のまま）とする社会実験と本格導入については、高速バス運行事業者にとっても有益な取り組みであり、高速道路外の高速バス停留所への立寄りが可能となれば地域の一般路線バスなどの地域公共交通との結節点にもなることや、道の駅利用の促進など地方創生への寄与にも繋がる効果があるので、トラックだけでなく高速バスの観点も持って取り組むことを求めた。道路局からは高速道路料金の財源の課題はあるものの平成29年度に本格導入をめざすとの回答をいただいた。

また、高速バスの乗客のトイレ利用などの安全性確保のためにも高速道路サービスエリアの駐車スペースをトイレ付近に確保することも併せて要請した。

引き続き、JR連合自動車連絡会は、各バス会社の現場で働く仲間の声を吸い上げ、バスに関わる構造的な課題に対して国交省など関係省庁への働きかけを行っていく。

以上